

		梅南津守小学校	いまみや小中一貫校
学校のいこと	・もっとも遠いところから通学している児童はどれくらい遠いですか？遠距離通学者への配慮は？（特に交通安全対策）	・交通量の多い道路を渡らなければいけないため、事前に何度か実際の通学路を通る練習を行った。 ・地域・保護者の見守り活動（毎日） ・地域、警察、区役所と連携し、新たに路側帯を設置。（路側帯の設置に反対する地域住民もいたが、連携機関・地域で話し合い調整した。） ・ミマモルメ（登下校通知システム）の導入。	・校区は大阪市内全域、ほとんどが西成区内、区外でいえば、都島・城東区からの通学。 ・ソフト面で、不法投棄対策として早朝のごみ収集（環境事業局と連携）、放置自転車対策としてパトロール強化（区役所）、防犯パトロールの強化（警察署）に取り組んだ。 ・ハード面では、防犯灯の設置、歩道の設置、中央分離帯を撤去し信号機を設置した。 ・通学時、中学生が小学生の面倒をみている。 ・ミマモルメ（登下校通知システム）の導入。
	・校区が広がることにより、今まで校区外だった所も行けるようになり行動範囲が広がることについての対策はされましたか？	・保護者への啓発、情報発信（交通事故等）を頻繁に行っている。	・校区は大阪市全域のため、校区という言い方はあえてしていない。寄り道はしない、家のルールを守る、いつ・誰と・どこへをきちんと伝える、ということを指導している。
	・学校により取組みが違ったり、民族学級などを活かしまとめることはできましたか？	・さまざまな「違い」は当然あるが、基本的には両校の文化を尊重する観点で、児童の交流を行ったり、職員の顔合わせや連絡会を実施し、あせらず時間をかけて話をすり合わせていった。	・民族学級がない学校もあったが、新たな学校で取組んでいく方向で進めている。 ・小中学校で使用する用語が異なることもある（例えば、講堂と体育館）ので話し合いながら合わせていった。 ・新学校がスタートしてからアンケートを実施し、2学期以降にもらった意見を活かしていく予定である。
	・中学1年生は今が一番下の学年で先輩や教員の目があるが、小中一貫校で一緒になった時に、小学生に対して嫌がらせや、悪い行為への引き込みなどはないですか？		・懸念していたが、そういった行動はなく、休み時間に運動場で遊んでいる小学生を中学生が優しい目で見守っている姿が見られる。
	・小学校と中学校では授業時間が違うが、小中一貫校ではチャイムを鳴らす時どうされていますか？		・校舎の工事があったため、「小学校のみ」・「中学校のみ」・「小中両方」の3つの回線を新設。 ・校舎で鳴らし分けしている。
	・統合の小学校の生徒数規模による、PTA 役員、実行委員に対しての配慮は？（別の区では4つの小学校の役員、実行委員の配置に苦労しているところもあると聞いた）		・PTA 副会長は複数人置くこととし、役員は全ての旧学校より平等に選出した。
地域のいこと	・小学校区=連合町会という単位で小学校の統合を考えていますが、分割して統合するという案も考えていましたか？	・小学校区単位での統合を基本として検討した。	
	・学校がなくなった地域（町会）はどうになりましたか？以前とはどう違いますか？変わらないですか？	・今までどおり。それぞれの地域で活動している。	
	・旧小学校区の地域（町会）との交流はありますか？ある場合は具体的にどのような形で行っていますか？		・地域行事について、その地域の子もだけでなく、元の校区に関係なく参加できるようにしてもらっている。

これからの教育環境を考えるワークショップ【第4回】説明概要

懸念事項	・統合する際、別の小学校と統合する選択もありましたか？ （例えば別の中学校区など、また、区役所が案を事前に用意していたのか、いなかったのか？）	・旧津守小学校が旧梅南小学校に統合されるということで話し合いを進めた。	・H22年3月に3小学校が統合する案が出たがそれ以降話がなくH24年に突然4校が統合し小中一貫校となる案が出て、統合に向けて調整した。
	・（統合まで）課題だと感じていたこと、それにどう対応したか、まだできていない事は？	・新しい学校の校名の決定に時間を要した。	・統合前にどれだけ打合せしても形になっておらず、新しい学校になり新しいスタッフになって初めて議論していくこととなった。
	・統合にあたり、もっとも懸念されていたことはなにか、最も配慮されたことは何ですか？	・通学の安全確保が懸念事項であった。学校、保護者、地域、教育委員会事務局、区役所ほか関係機関が連携して対応してきた。さらなる安全確保に向け現在も引き続き取り組んでいる。	
	・学校統合するのに一番問題となったことは何ですか？	・小学校がなくなったら選挙時の投票所はどうなるのか？災害時の避難所は？など、いろいろな問題がこれからもでてくるかと思う。 ・全員が統合に賛成にはならない。最終的には地域で子どものために話し合いをした。	
スケジュール	・統合にあたり、どのようなスケジュールで、どのようなメンバー構成で準備を進めていったのか。具体的に時系列で聞かせてほしい。	・1年間で閉校し、平成27年4月に開校した。 詳しくは、当日配付資料2（差替え版）「大阪市立梅南津守小学校 統合へそして…統合してから…」スライド6ページを参照。	・平成24年度末から話し合いを開始した。 詳しくは、当日配付資料3「いまみや小中一貫校 実際に学校統合を通じて…」スライドページ4を参照。
跡地	・統合されてしまった学校の跡地利用はどうされますか？どうなりますか？	・教委と月1回程度話し合いの場を持ち、今まで使用していた地域行事についてはこれからも使用できる許可をもらった。ただし、新しい行事は使用不可。 ・跡地利用実行委員会を立ち上げて、教育委員会に閉校前から要望をあげた。	・旧萩之茶屋小は未決定。 ・旧今宮小は講堂・運動場は地域で使用する事となった。校舎は売却の予定ではないか。 ・旧弘治小は、地下は元々駐輪場となっており、校舎には、生活指導サポートセンター（個別指導教室）が設置されている。
その他	・統合する前には想定されていなかったエピソード等あれば聞かせて下さい。	・閉校後の学校跡地において地域イベント実施時、水道・電気は使用できるが、ガスは安全面からガス栓が閉じられており使用できない。また、ごみの収集もないので集配の手配をしなければいけなかった。 ・学校行事と地域のお祭りが重なった。地域で話し合い、お祭りの日程を1日ずらした。	・施設一体型であるので自校調理の給食を中学生が食べているが、評判がよく、給食のご飯が足りないのではどうかという保護者からの意見もある。 ・小中分けずに1つのPTAとして設立する方向で、統合1年以上前から4校のPTA会長と話し合いを重ねてきた。 ・新しい規約などについても何度も検討し、各校のPTA臨時総会で可決、決定した。

その他	・統合前と統合後のいろんな立場の方々（保護者、地域住民、児童生徒、教員など）のメリットやデメリットを聞かせてほしい。	・（児童）友達が増え、もまれる経験ができる ・学校統合後の児童の感想文紹介 ・友達ができるか心配であったがたくさん増えて嬉しい、これからも友達を大切にしたいと思っている。 ・新しい友達と気が合うか不安だったが、仲良く遊べて楽しい。人数が増えてケンカすることもあったが、一緒に話をしていくうちにケンカも少なくなって、ワイワイ仲良くできて嬉しい。 ・最初はいやだった（緊張した）。だけど、いきいき教室や遠足で友達がいっぱいできて良かった。	・保護者 （メリット）相談をもちかけられる先生が増えるのではないかな。 （デメリット）家と学校との距離が大きくなり何かと不便になるのではないかな。 ・地域住民 （メリット）新しい学校で複数地域が混じり合うことでより多くの皆さんと知り合えること。 （デメリット）学校周辺地域の出店規制がなくなる。 ・児童生徒 （メリット）少ない人数でできないことも、人数が多くなればできることも。複数学級あればクラス対抗ができる。また、人間関係の固定化を防げる。友達が増える。 （デメリット）先生一人あたりがみる子どもの数が多くなる。少ない人数であれば目が行き届くけれども、子どもからみれば、先生の目が行き届くということはずっと先生に見られてる感を感じることにもつながるのではないかな。 ・教員 （デメリット）1学年1学級の担任であれば自動的にその学年主任となり、学年全体の責任を持つこととなり、また、学年について相談する相手がいない。教員の負担感が大きくなるのではないかな。 捉えようによってはどちらもメリット・デメリットとなるのではないかなと思う。
-----	--	--	--

これからの教育環境を考えるワークショップ（第4回） 当日の質疑応答一覧

項番	質問内容	回答者	回答内容
1	問題行動を起こす中学生が多い。小中一貫校となって小学生への影響はどうか？（特に問題行動を起こすような中学生の悪い影響を心配）	いまみや小中一貫校 校長	そういった懸案事項はなく、小学生への悪影響もなかった。
2	子どもの安全確保、特に通学路の安全確保については必須となる。統廃合の方針を出した後に調整しているのでは遅い。また、地域・学校等現場任せの調整とするのではなく、事前に教育委員会事務局・区役所が関係部署と連携し積極的に考えてほしい。	教育委員会事務局 学校適正配置担当課長	学校・教育委員会・区役所とPTA・地域が連携し、現場確認においても、警察や道路管理者など関係機関と双方確認したうえで、安全確保の対応を行った。
		梅南津守小学校 校長	事前にできることは望ましいが、問題が生じたときに関係者（地域、学校、教育委員会、区役所等）で話し合い解決できることが大切ではないかと思う。
3	卒業生のOB会はどうなったのか？どうしているのか？	津守地域活動協議会 会長	OB会は存在しなかったが、7,800名以上の卒業生に閉校式の案内は行った。
		いまみや小中一貫校 PTA 会長	OB会は旧小学校単位でそれぞれにまだ存在している。 現在は、いまみや小中一貫校PTA会長としてそれぞれの行事に参加できる範囲で参加している。
4	大阪市では小中一貫の取組を進めているが、中高一貫を大阪府と一緒に進めていると聞いた。2つの方向性はどう配慮されるのか。小中一貫となった後に中高一貫に舵を切ることはないのか？	教育委員会事務局 学校適正配置担当課長	本市教育委員会においては、平成23年より全ての小中学校で小中一貫した教育の推進を方針として取組んでいる。 【事後確認】 本市では併設型中高一貫校として平成20年4月に咲くやこの花中学校・高等学校を設置し、ものづくり、スポーツ、言語、芸術の分野で中高6年間一貫した特色ある教育により専門性を深化させることを希望する生徒を募集している。 対して、小中一貫教育の推進は義務教育の範疇での取組みとして市内全ての小中学校で実施しているものであり、両者はその性質を全く異にするものである。

項番	質問内容	回答者	回答内容
5	小中一貫校における就学制度について ・私立の小学校を卒業し、今宮中学校に進学することはできるのか？ ・また、新今宮小学校を卒業して、私立の中学校に進学することは可能なのか？	いまみや小中一貫校 校長	どちらも可能。
6	今後、どんどの数が減っていくとされている。生野区においては、小学校が統合されたとしても少人数であり、そのまま中学校に進学しても少人数である。小学校だけでなく、中学校においても持続可能な生徒数を維持できるのかといったことも考慮されているのか？	教育委員会事務局 学校適正配置担当課長	毎年人口動態調査により実態把握を行い、一定期間先の入学予定者の予測をだてている。今後とも区と連携しながら、実態に合わせ慎重に検討し、取組を進めていく。